

2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
教育学部 子ども発達学科	講師	松本 亜香里
最終学歴	学位	専門分野
名古屋音楽大学大学院音楽研究科修士課程修了	修士	保育学、幼児教育学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

学生一人ひとりが互いの特性を認め合い、多種多様な意見を受け入れ、誠実さをもってかかわり合っていく。

【目標】

ゼミナールをはじめ担当授業において、学生一人ひとりが自分の考えや意見をもって、保育者および教育者の同志として互いに認め、高め合う関係を構築する。

【方針】

将来、保育者および教育者となる学生が、多様性を受け止め認め合える学びの環境づくりを心掛ける。

【計画（方法）】

教授内容が多い科目、特に学外実習関連の場合は、学生が見通しをもって受講できるよう、授業冒頭に本時の目的を提示し自由度をもたせつつポイントを押さえて記入できるレジュメ作成を行う。また、討論や発表において学修効果が期待できる科目においては、安心して意見が出し合えるよう十分に時間や空間を確保しつつ、小グループだけでなく全体への意見共有を行い、人の前で話すという経験も積む。発表時には、教員が意見まとめを行うのではなく、学生自身の気づきを可視化できるような工夫を各科目において行う。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

教育実習Ⅰ（幼稚園）、教育実習事前及び事後の指導（幼稚園）、保育実習事前指導ⅠA、子育て支援、保育内容（身体表現）ab、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

保育実習Ⅱ事前事後指導、保育実習指導ⅠA、保育実習Ⅱ、保育実習ⅠA、保育内容総論ab、幼児と身体表現ab、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

教育実習指導では、受講生の背景として初等教育コースと幼児教育コースどちらに所属するかによって実習経験が異なることを鑑み、初めて実習に行く学生にも実習期間ならびに事前事後の流れが理解できるように、一覧に示し、ToDoリストを提示した。このことにより、学生自ら漏れがないよう確認しながら主体的に実習準備を進められていた。

身体表現や保育内容総論では、1年次後期段階の学び状況を考慮し、適宜事例を用いながら子どもの発達と援助の在り方、保育方法について理解を深められるよう工夫した。子育て支援では、学生が支援の場面をイメージしやすいように、事例検討を毎時間行い、他者理解を深めるために

グループワークを積極的に行った。全ての科目において、毎回課題を提示し、予習と復習を含め、知識の定着と他者の見解に触れることによる援助技術や保育観の拡充を図った。

専門演習では、学生の知的好奇心に合わせて演習内容を組み立て、後期ではその成果を大学祭において子どもへの遊び提供へとつなげた。

保育実習指導では、担当者間での共通理解を確認しながら進めていった。各自の実習の課題設定については、特に丁寧に履修者と担当者として実習計画書を通して指導を重ね、実習課題に対しどのように実習では観察や考察を深めると良いのか、意思的に実習を行うことを目指した。

○作成した教科書・教材

毎回要点をスライドにまとめ、解説や要点が書かれたレジュメへのメモを促すことにより、事後学習時に振り返りが円滑にできるよう工夫した。

○自己評価

教育実習指導では、学生のこれまでの学びに配慮した授業進行とタイトなスケジュールでの実習準備について改善の余地が見られる。

子育て支援では、現代の子育て環境や社会情勢を理解したうえで、事例をスマールトークと全体共有を織り交ぜて実施した。活字だけではイメージしにくいことも、実際でもあるように、見えない要支援者に対してのアプローチの仕方等、回を重ねる毎に学生同士の議論が深まったように感じられた。その結果として授業評価アンケートでは、理解が深まったという感想が多数みられた。

専門演習授業では、3年次は保育教材研究と論文執筆に向けた文章構成のワークを並行して実施した。文章構成のワークは、授業内で意見交換しながら進めたが、基礎学力に差があるため事前学習として渡し、それぞれの見解をゼミの中で共有すると、より学びが深まると思われる。

保育実習指導では、担当者双方で学生一人ひとりと実習計画について丁寧にやりとりを重ねた結果、保育実習Ⅰが初めての実習であるにもかかわらず、各自の方向性がしっかりしていたため、日誌の書き方や指導案の書き方について実習期間中、実習生からの相談の連絡や実習先からの日誌に関するご指摘はほとんど見られなかった。保育実習Ⅱにおいても、保護者支援や地域のかかわりなど、子どものかかわりに加えて保育者の多様な役割についての理解が深まったように、学生の自己振り返りシートの中から読み取ることができた。

保育内容総論では、保育の歴史から現代の動向、原理原則のところをしっかりと押さえたうえで事例検討を行った。その結果、毎回のレジュメにこちらが意図する以上のことを調べて書き加えている学生が数人みられた。今後は、こういった学びの深め方を全体で共有するようにすることで、能動的に学んでいる学生への刺激となることが期待できる。

身体表現では、1年次の演習でさまざまな身体表現活動の保育教材を体験し、2年次前期ではその体験をもとに模擬保育を行う。今年度の2年生全体として、教材研究を事前にしっかりと行う姿勢が見られ、子ども役として参加する学生も、発達を意識した動きが見られた。このことから、1年次の演習で丁寧に発達と活動のかかわり、保育者の援助の視点を学ぶことの大切さが分かった。引き続き1年次の段階で、一人ひとりの気づきの一つひとつコメントを入れながら対話していくこととする。

II 研究活動

○研究課題

- ①子どもの「楽しさ」に関する研究
- ②子育て支援のあり方について

○目標・計画

【目標】

- ①子どもの「楽しさ」に関する研究について、客観的データを収集し分析を行う。
- ②子育て支援について現施策と今後の動向を鑑み、子育て支援の展望とあり方の検討を行う。

【計画】

- ①「環境を通じた保育」が打ち出される中で、子どもが「楽しさ」を感じる環境ならびに要因について、継続して研究している。それというのも、保育における「楽しさ」についてはっきりとした定義がなく、保育実践や子どもの発達段階等の研究はなされている中で、その本質となる「楽しさ」に関する研究が少ないからである。これまで保育者への意識調査や文献調査を行ってきたが、客観的データとしての実践を試みたい。そのために、保育現場での活動を限定して調査を行い、数値化したいと考えている。
- ②保育の本質を探る中で、現代の日本において課題となっている「子育て支援」について、現在の施策と今後の政府の動向を鑑み、子育て支援のあり方と保育者養成段階での教育に求められる内容について一考察を進める。そのために、まずは愛知県内の子育て支援の現状と県ならびに市の施策を探り、政府が公開している現状と比較検討を行う。

○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・立花直樹，渡邊慶一監修，丸目満弓，河野清志，中典子，明柴聰史編著，松本亜香里ほか『こどもまんなか社会に活かす「子育て支援」』晃洋書房，第2章保護者との相互理解と信頼関係構築，pp.18-24，ワークとワーク解説，書籍未掲載 HP よりダウンロード，2025年
- ・立花直樹，安田誠人監修，中典子，青井夕貴，谷村和秀，吉田祐一郎編著，松本亜香里ほか『こどもまんなか社会に活かす「子ども家庭支援論」』晃洋書房，第7章こどもまんなか社会に活かす地域の社会資源，pp.58-66，ワークとワーク解説，書籍未掲載 HP よりダウンロード，2025年
- ・民秋言，安藤和彦，米谷光弘他編著，松本亜香里ほか『新保育ライブラリ 幼稚園実習[新版]』北大路書房，第3章4節保育教材の用意と指導の心構え，5節子どもたちとの関わり，第4章実習が終わったら，pp.107.109-111.138-139.142，2020年
- ・高御堂愛子，植田光子，木許隆編著，松本亜香里ほか『保育者をめざす 楽しい音楽表現』圭文社，第3章Ⅳ. あそびうた①わらべうた，pp.71.84-85，2017年

（学術論文）

- ・松本亜香里「多様化する日本の子育て支援—名古屋市の取り組みと課題—」『東邦学誌』第53巻，2号，pp.17-29，2024年
- ・松本亜香里・桂山たかみ「保育内容「言葉」の指導法に関する一考察（1）—絵と言葉を用いた楽譜作成の取り組みから領域間連携の展望—」『ユマニテク教育研究所紀要』第3号，pp.18-25，2024年
- ・桂山たかみ・松本亜香里「絵と言葉のリズムによる打楽合奏曲作成への試み①—子どもがリズムを理解する一助となる絵と言葉の楽譜の検討—」『ユマニテク短期大学紀要』第7号，pp.43-50，2024年
- ・松本亜香里・伊藤喬治「保育内容5領域をつなぐ視点の学び—表現指導法の授業実践から保育内容総論とのつながりを試みて—」『ユマニテク短期大学紀要』第5号，pp.43-52，2022年
- ・桂山たかみ・松本亜香里・山野栄子「こどもが器楽合奏を楽しむ足がかりとして—独自楽譜の保育者養成校での取り組みから—」『ユマニテク短期大学紀要』第5号，pp.30-42，2022年

- ・松本亜香里「保育内容の領域間をつなぐ学びの一考察ー模擬保育活動の振り返りとして「ねらい」を考える実践からー」『ユマニテク短期大学紀要』第5号, pp.14-21, 2022年
- ・松本亜香里・伊藤喬治「保育者志望の学生のこどもを対象とした言葉がけに関する一考察(1)ー保育実習指導Ⅱの授業実践からー」『ユマニテク短期大学紀要』第4号, pp.10-19, 2021年
- ・横井一之・松本亜香里・永井弘人「デンマーク語の童謡を日本語で理解する指導についての試みー「保育環境論」における替え歌作りの実践と領域「表現」の視点からー」『東海学園大学教育研究紀要』第6号スポーツ健康科学部, pp.107-117, 2021年
- ・松本亜香里「幼児歌曲におけるピアノ伴奏の運指法に関する一考察」『ユマニテク短期大学紀要』第3号, pp.18-25, 2020年
- ・堀建治・松本亜香里・小杉裕子「保育者養成テキストからみる「楽しさ」に関する研究ー保育教材としての「手遊び」を中心にー」『ユマニテク短期大学研究紀要』第3号, pp.12-17, 2020年
- ・伊藤喬治・松本亜香里「保育者養成校学生による理想の保育施設像に関する一考察ー保育実習指導の授業実践からー」『ユマニテク短期大学紀要』第3号, pp.5-11, 2020年
- ・松本亜香里・堀建治・渡邊明宏「ゼミナールにおける学生の主体性と学び合いー保育教材作成および教材研究の取り組みからー」『三重幼児教育文化研究会幼児教育文化研究』第5号, pp.25-35, 2020年
- ・横井一之・松本亜香里「フィンランド語の童謡を日本語で理解する指導についての試みー保育環境論での替え歌作りの実践よりー」『東海学園大学教育研究紀要』第5号スポーツ健康科学部, pp.109-117, 2019年
- ・松本亜香里「小麦粉粘土活動からみる保育者志望学生の表現の過程と環境」『ユマニテク短期大学紀要』第2号, pp.17-26, 2019年
- ・渡邊明宏・松本亜香里「保育における身体表現の指導に関する考察」『ユマニテク短期大学紀要』創刊号, pp.134-140, 2018年
- ・松本亜香里「表現活動における保育教材研究ー多角的な視点を目指してー」『ユマニテク短期大学紀要』創刊号, pp.101-107, 2018年
- ・桂山たかみ・松本亜香里ほか「子どもの表現を助長する劇の効果音ー音楽表現の視点からー」『ユマニテク短期大学紀要』創刊号, pp.42-54, 2018年
- ・堀建治・松本亜香里「「楽しさ」に関する基礎的研究ー「手遊び」をてがかりとしてー」『三重幼児教育文化研究会幼児教育文化研究』第3号, pp.19-26, 2018年
- ・松本亜香里・渡邊明宏「表現あそびの指導法(その1)ー音楽表現のあり方を新幼稚園教育要領・保育所保育指針から探るー」『三重幼児教育文化研究会幼児教育文化研究』第3号, pp.27-34, 2018年
- ・村木清子・松本亜香里ほか「幼児から児童(小学校低学年)における歌唱指導について」『大橋学園紀要』第4号, pp.56-60, 2017年
- ・松本亜香里「こどもの歌のプレスに関する一考察ー歌詞を味わい歌の世界観を感じる表現を目指してー」『大橋学園紀要』第4号, pp.35-43, 2017年
- ・松本亜香里・桂山たかみほか「ピアノを用いた音楽表現を教員自らが楽しむためにー初等教育(幼稚園、小学校)教諭養成課程におけるバイエル教則本の指導から探るー」、『三重幼児教育文化研究会幼児教育文化研究』第2号, pp.18-31, 2017年

(学会発表)

- ・松本亜香里「幼児向け体操の動きに関する一考察ー保育者志望の学生の動きの好み調査からー」全国大学音楽教育学会中部地区後期研究大会(名古屋学芸大学), 2024年度

- ・堀建治・松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究（その12）－手遊びを中心に－」日本保育学会第76回大会（オンライン開催・熊本学園大学），2023年度
- ・堀建治・松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究（その11）」日本保育学会第75回大会（オンライン開催・聖徳大学），2022年度
- ・桂山たかみ・松本亜香里・山野栄子「こどもが器楽合奏を楽しむ足がかりとして（2）」日本保育学会第74回大会（オンライン開催・富山大学），2021年度
- ・堀建治・松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究（その10）－新型コロナウイルス下における「手遊び」の実態を中心に－」日本保育学会第74回大会（オンライン開催・富山大学），2021年度
- ・桂山たかみ・松本亜香里・山野栄子「こどもが器楽合奏を楽しむ足がかりとして」日本保育学会第73回大会（奈良教育大学），2020年度
- ・堀建治・松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究（その9）－手遊びをてがかりとして－」日本保育学会第73回大会（奈良教育大学），2020年度
- ・松本亜香里「実習における指導計画案のてがかりとして（2）－表現活動の教材研究から探る－」日本保育学会第72回大会（大妻女子大学），2019年度
- ・堀建治・松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究（その8）－手遊びをてがかりとして－」日本保育学会第72回大会（大妻女子大学），2019年度
- ・松本亜香里「実習における指導計画案のてがかりとして－表現活動の教材研究から探る－」日本保育学会第71回大会（宮城学院女子大学），2018年度
- ・堀建治・松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究（その7）－手遊びをてがかりとして－」日本保育学会第71回大会（宮城学院女子大学），2018年度
- ・山野栄子・松本亜香里「保育学生の乳幼児の絵本に関する意識調査Ⅰ」日本保育学会第70回大会（川崎医療福祉大学），2017年度
- ・堀建治・松本亜香里「「楽しさ」に関する基礎的研究（その6）－「手遊び」を中心として－」日本保育学会第70回大会（川崎医療福祉大学），2017年度
- ・松本亜香里・桂山たかみ「幼児歌曲伴奏法－バイエル教則本を教材としたコード奏研究－」日本保育学会第70回大会（川崎医療福祉大学），2017年度

（特許）

なし

（その他）

なし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

日本保育学会、日本保育者養成学会、全国大学音楽教育学会、日本保育文化学会

○自己評価

日本保育学会では、2025年5月の大会にむけて研究目標①に関し現任保育者へのインタビュー調査を行った。インタビューの結果から、子ども同士の「共振」、子どもと保育者の「共振」について「手遊び」の有用性に触れる中で全員から挙がった。また、「考える力」への期待も「手遊び」という保育教材に持たれており、「主体性」や「考える力」と「共振」や「楽しさ」との関連についても調査していきたい。

②について昨年から繰り越されていた論文の執筆が終え、東邦学誌に投稿した。また、子育て支援や子育て家庭への支援について、保護者とのかかわりや社会資源について書籍にまとめることができた。子育て支援場面の事例を保育現場から聴取し、保護者が抱える困り感について現状と対応を今後まとめていきたい。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

「真に信頼して事を任せうる人格の育成」の建学の精神にのっとり、自らが与えられた職務（学術情報センター運営委員会と広報委員会、学部内分掌）において、真摯に取り組んでいく。

【計画】

ソフト面では学生指導、諸々の大学運營業務との連携、そしてハード面では委員長をはじめとする委員でターゲットに合わせた効果的な広報活動や、学生や地域の方が利用しやすい図書館運営について検討していく。学部内分掌においては、近年学生の参画がされていなかったミニ子育て広場を積極的に携わっていく。また、次年度開催予定である全国保育士養成セミナー全国大会の企画委員および実行委員として、本学を代表して運営に積極的に携わる。

○学内委員等

教育学部部会、広報委員会、学術情報センター運営委員会

○自己評価

課程部会では、議事録を担当し滞りなく遂行することができた。広報委員会では毎月の委員会において、委員長のリーダーシップのもと、広報委員会で取り扱うべき範疇を確認しながら広報課と連携ととっていた。その中で、委員としてこれまで勤務してきた大学での取り組みを共有したり、他大学の広報媒体をリサーチしたりして貢献できるように準備をした。広報活動として、授業の内容を入試広報課へ共有し情報発信につなげた。今後は自身での投稿も積極的に行いたい。学術情報センター運営委員会では、学部としての諸々のニーズを聴取しセンターへの共有を行うことができた。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

保育に関連する研修会の講師や運営に関する委託業務をもって、研究成果を社会へ還元する。

【計画】

研究成果の発表により、社会に還元するとともに、学会での研究交流から得た知見を教育活動へ還元する。

○学会活動等

全国大学音楽教育学会 紀要編集事務局（2023年～現在）

全国大学音楽教育学会 理事（2024年～現在）

全国大学音楽教育学会中部地区学会 副会長（2024年～現在）

○地域連携・社会貢献等

市立四日市病院託児所運営協議会評議員（2022年～現在）

○自己評価

近隣の保育関係のネットワークが乏しい中、9月名東区子育て支援ネットワーク連絡会主催の「名東区子育てミニ広場」など、本学で開催があったイベントで主幹施設の代表と密に連絡を取りながら運営に当たることができた。今年度は、実習の経験がない学生をスタッフとして参加してもらい、勉学へのモチベーション向上を図った。

本イベントの参加者は子育てに関心の高い方が多いため、昨年度は大学イベントや図書館へもアナウンスに対し関心を持っていただくことができた。しかし、今回は駐車場や学内乗り入れのことを鑑みて卒業式開催日を避けた結果、蔵書点検の日程と重なったため、口頭での案内のみとなってしまう。次年度は各所の状況を確認しながら日程を決めていく。

市立四日市病院託児所運営に関して、評議員として運営内容や保育士確保について意見を求められ、運営費の使途や広報手段などを提言した。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

学内の 2024 年度授業実践に関する教員表彰を受け、FSDS 研修と高大合同研修会において授業実践報告を行った。その他、学会や研究会へ積極的に参加し、研究ならびに教育へのモチベーションを維持し向上させる。

VI 総括

教育活動については、計画に沿って準備を入念に行い、計画を達成することができた。そのため、ゆとりをもって一人ひとりの感性や考えに沿った学生対応を行うことができた。研究活動については、共同研究において分担された役割を遂行することができた。また、研究成果として論文や書籍にまとめることができた。大学運営では、幼稚園実習と保育実習の担当として、教務課職員や学部の協力を得て実習の管理運営を行うことができた。また、オープンキャンパス模擬授業の講師を担当して、大学の広報に貢献した。今年度授業実践に関する教員表彰を機に、さまざまな場面で授業実践や保育に関する講話を行った。このような活動によって保育者養成に携わっていない人にとって、保育の意義や保育者養成の責務への理解を深めることができよう。今後も、授業実践だけでなく、保育の意義ややりがいを広めることを目指す。

以 上